Generalist
in Kyoto Medical Center

国立病院機構　京都医療センター

小山　弘

ジェネラリストの楽しみ

- 広い範囲をカバーする
  - 多くの患者に、寄り添える
  - １人の患者に、長く寄り添える
  - 複数の病態を解きほぐし、解決していく楽しみがある
- どのような場においても、医療資源が豊富であるかないかにかかわらず、活躍できる
  - 先進的な医療資源がなくても、自分の手と頭で問題を解決し、人に喜んでもらえる
  - モチベーションさえ保てれば、どこでも充実した医師人生を送ることができる

ジェネラリストの活躍の場

- 病院の総合内科
  - 病棟：　内科系病棟医、場合によって集中治療の領域まで
  - 外来：　初診、複数の状況を有する患者の包括的管理
  - 救急外来：　１～2次を中心に、場合によって3次まで
- 診療所
- 総合診療科
  - 外来
  - 救急外来
- 臨床教育

総合内科・総合診療科のキャリア

- 大規模病院
  - 教育、病棟専従医（hospitalist: 急性期を中心に内科系疾患の全般的な管理を担当する）、救急外来、初診外来
- 中小規模の病院
  - 病棟および外来での幅広い内科系疾患の管理
- 診療所
  - 地域の住民に継続的、包括的な医療（予防医学を含む）を長期にわたり提供し続ける
- 海外：国際医療協力

総合内科・総合診療科のキャリアパス

医学生の
診療参加型
臨床実習

市中病院における救命科、総合内科・総合診療科を必修としたスーパーローテーションによる臨床研修

ER担当と救命科ローテーションを含む
内科専門研修
総合診療科専門研修

他部門の専門研修医
他部門専門医

大規模病院
中小規模の病院
診療所（往診を含む）
海外

手技を主体とする診療部門ではないため、医師の人生のあらゆる段階で、総合内科に転進できます

小山のメッセージ：
内科専門医とは

元来、内科医は、内科医でした。

内科医として、心臓も、胃腸も、肺も、高血圧も、糖尿病も診ていました。

そして内科を修得した内科医の中で、「私は循環器を、消化器を、呼吸器を更に研鑽し、人々のために役にたちたい」と、志す人たちが生まれました。

それがいつの間にか、最初からサブスペシャリティーを、という内科研修が主流となりました。

医学・医療の高度化、複雑化に鑑みると、これは止むを得ない面があると思います。

しかし、まず内科全体を修得したい、その上でサブスペシャリティーを極めたい、という若者がいて当然だと思います。そしてそれを、私たちは、全力で支援したいと考えています。

また内科全体を修得した後、内科全体をさらに極めたい、という「あなた」がいてもいいじゃないですか。そういう「あなた」のために、総合内科があります。